

1. 選択は、一行めの三ばんめが四ばんめのマスから書きなさい。
2. 学校・学年・姓・氏名は、行めに書きなさい。
3. 文章は三行めから一字さけて書きなさい。
4. 文章の構想をしっかりと立ててから書きなさい。
5. 各段落のはじめはかなづかず、さけて書きなさい。一つの文書が終わったら行を変えなさい。

5. 読みやすいように、とよむづかづかまじょう。
6. 人が話したところは、「」のなかに入れまじょう。「」は、それぞれ一字におおえてマスのなかに入れまじょう。
7. 漢字やかなづかに気をつけ特例「は」と「わ」、「へ」と「ゑ」、「お」と「ゑ」とき、しっかり使いわけまじょう。
8. 書きおわったら、何度も読みなさい、まちがひをなして、たりなることなをなせなさい、むだなことはを行はずまじょう。

(月 日 年)

障がいは不便だけど不幸じゃない

輝北中二年山口瑞稀

「おばあちゃん」

おばあちゃんの家に来て、鍵を開けてもらう。
おばあちゃんがいるところから玄関まで二
三メートルぐらいいしかない。だけど鍵が開く
まで三十秒ぐらいかかる。その時、私は、
一さすかにもう少し速く歩けるんじゃないの
と少しいらついた。

おばあちゃんに「もう少し速く歩けないの
と聞いてみると、四歳のときには足が痛くな
て、小学校は杖をついて通学していたそ
原因は結核菌による左股関節機能障害だ
そうだ。原因かはっきり分かったのは二十
六歳のときだ。その時、右の骨盤の骨
をけずって、左の骨が足らない部分に移植す
る手術を受けたそうだ。今は完治してい
る代に、もし結核になつている。ちなみに、今
で完治するそだ。

中学校

No.

（不許複製）

5. 読みやすいように、とよむづかづかまじょう。
6. 人が話したところは、「」のなかに入れまじょう。「」は、それぞれ一字におおえてマスのなかに入れまじょう。
7. 漢字やかなづかに気をつけ特例「は」と「わ」、「へ」と「ゑ」、「お」と「ゑ」とき、しっかり使いわけまじょう。
8. 書きおわったら、何度も読みなさい、まちがひをなして、たりなることなをなせなさい、むだなことはを行はずまじょう。



中学校	
そんなんことをおばあちゃんから聞いて少	し福祉に興味をもった。そんな中、学校に福祉施設の方々が来てくださった。足が悪い人
視覚障がい者、聴覚障がい者、お年寄りの方々の介護の仕方や、話しかなと詳しく教えていただいた。特に警いたことは、視覚障がい者と一緒に歩くときは、視覚障がい者は前方が安心すると思っていたからだ。その	半歩前に出て歩くことだ。半歩前より隣で歩後、奥際に体験をした。視覚障がい者の体験
では、アイマスクを着用して体験した。視界が真っ暗になってしまった。立っているだけでも怖かった。まづいてしまふ。お年寄り体験では、両足におもりを着けて、眼鏡を着けて視界を悪くして乗る人	た。まづすぐ歩けないし、少しの段差にもつた。まづいてしまふ。お年寄り体験では、両足におもりを着けて、眼鏡を着けて視界を悪くして乗る人
たり、字を読んでみたりして、單純な動作なりに自分の思つた通りに動きにくくなつた。車いす体験は二人一组になつて乗る人	くし、手袋を着けて体験した。新聞をめくつた。車いす体験は二人一组になつて乗る人

20×20

1. 項目は、「行めの三ほんめが四ばんめのマスがふ書きはじよ。
2. 学校・学年・姓・氏名は「行めに書きはじよ。
3. 文章は三行めから一字さけて書きはじよ。
4. 文章の構造をしっかりと立てから書きはじよ。各段落のはじめはかならず一字さけて書きはじめ、一つの段落が終わったら行を空えはじよ。

(月 日 年)

5. ねんやうじよ、「と」とおじつかりつけよ。

6. 人が話したところは、「」のなかに入れましょ。

7. 漢字やかなづかに気をつけ特に「は」と「わ」、「へ」と「ゑ」、「お」と「ゑ」とも、しっかり使ひわけましょ。

8. 書きわらつたら何回も読みなおし、まちがいをなし、たりなうことばかりなる、むだなことはけりましょ。



1. 項目は、「行めの三ほんめか四ほんめのマスから書きましょ。」
2. 学校・学年・姓・氏名は「行めに書きましょ。
3. 文案は三行めから一文字だけ書きはじめましょ。
4. 文案の構造をしっかりと立ててから書きはじめましょ。各段落のはじめはかなう一字さえて書きなじめ、一つの説得が終わったら行を空えましょ。

(月 日 年)

と	押	す	人	に	分	か	れ	て	体	験	し	た。	押	す	側	に	な		
つ	て	い	る	ヒ	き	は	、	下	り	坂	を	後	ろ	向	き	で	下	り	て
い	き	、	ス	ビ	ー	ト	を	調	整	す	る	の	が	難	し	か	つ	た。	
乗	る	側	に	な	つ	た	と	き	に	手	で	車	輪	を	動	か	し	て	み
る	と	、	平	た	ん	な	道	は	ま	だ	大	丈	夫	だ	、	た	け	ど	、
登	り	坂	は	と	て	も	一	人	ひ	は	無	理	だ	、	た	け	ど	、	ま
三	つ	の	体	験	で	は	共	通	し	て	階	段	や	少	さ	な	段	差	が
一	番	怖	く	て	難	し	か	つ	た。	視	界	障	が	い	者	体	験	で	、
は	、	白	杖	を	上	手	に	便	わ	な	い	と	転	び	そ	う	に	な	、
た	た	ま	た	お	年	寄	り	体	験	で	は	、	兩	足	に	あ	も	り	が
つ	い	て	い	る	し	、	腰	も	ま	す	ぐ	伸	ば	せ	な	か	、	た	
の	で	、	一	段	登	る	の	も	時	間	古	い	つ	も	の	倍	以	上	使
う	し	、	疲	れ	も	い	つ	も	の	倍	以	上	あ	、	た	。	な	い	よ
り	車	い	す	体	験	で	の	ト	さ	な	段	差	は	絶	対	に	一	人	
で	は	乗	り	越	え	ら	れ	な	い	。	体	験	の	と	き	は	、	ペ	ア
か	一	緒	に	い	た	か	ら	乗	り	越	え	る	こ	と	か	で	き	た	け
ど	も	し	一	人	だ	、	た	う	と	考	え	る	ヒ	、	と	て	も	不	、
自	由	で	、	た	、	あ	は	あ	ち	せ	ん	に	話	す	と	、	一	、	、
フ	の	口	葉	か	心	に	と	き	つ	た	。								

20×20

(不許複製)

5. 読みやすくなると、と。などいつもつかない。と。とは、それそれ一字しかつかない。マスのなかの右上のほうにつけました。
人が話したところは、「のなかに入れましょ。」「は、それぞれ一字しかえてマスのなかに入れましょ。
漢字やかなづかいで氣をつけ、特に「は」と「わ」、「く」と「え」、「お」と「を」とも、しっかり使いわけましょ。
書をおわったら、何回も読みなさい、またおくるをなさい、まだないときはおきなさい、むだないとはわけずりましょ。

1. 題目は、一行めの三ばんめが因ばんめのマスから書きましょう。
 2. 学年・姓・氏名は、一行めに書きましょう。
 3. 文章は三行めから一字さげて書きはじめましょう。

文書の構造をしつかり立ててから書きはじめましょう。各段落のはじめはかなとす。字さげて書きはじめ、一つの段落が終わったら行を変えましょう。

(用 日 曜日)

「障」かりいは不便だけど、不幸じやない。
 確かにそろだ。体験して、不便だと感じるこ
 とはたくさんあつた。でも不幸だとほ思わな
 い。だから自分の人生は自分でつくられるから。
 でも世の中に障かいをもつ人をあざわらう
 人もいる。無視する人ちいる。そんなことを
 されたら私が障かいをもつても、「死にた
 い」と思ってしまう。そう思う人を一人でも
 少なくしていいことが今の私たちの使命なの
 ではないかと思う。

中学校

20×20

(不許複製)

5. 読みやすいようだ。と。おもしろいからつむぎょう。と。とは、それぞれ「手にあやしい」マスの左上のほうにつけましょう。
 6. 入が話したところは、「」のなかに入れましょ。」「」は、それぞれ「手にあやせてマスのなかに入れましょ。
 7. 漢字やかなづかいで気をつけ、特に「は」と「ね」、「く」と「ん」、「ね」と「を」と「を」と「を」、しっかり使ふわけましょ。
 8. 本をおわったあと、何回も読みなさい。まわかることばをわからなる、むだなことばを行りましょ。

